

【美術】

印象派

～ClassPad.net の授業支援機能・各種ふせんを活用する～

印象派と日本文化の関連を知る授業

印象派の歴史の一端とジャポニズムの動きについて知る。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：西洋美術に日本文化が与えた影響を通して、印象派の運動を伝える。

生徒向けの目標：印象派について辿る中で、日本文化がヨーロッパに与えた影響を知る。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

・授業準備の時短／効率化：

参考図版やキーワードをふせん上で流れに沿って示すため、生徒は効率的に確認・イメージすることができる。

・協働学習促進：ファイルふせんと授業支援機能を用いて生徒同士の作品鑑賞を可能に。

・課題の配布→回収→管理→添削→返却の効率化：授業支援機能を使えば、全ての手順が容易に。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

本日のメニュー

- ・印象派って？
- ・ゴッホと日本の影響関係

目標

ゴッホがなぜ評価されているのかわかる。

目的・概要の説明

導入として、ゴッホの《ひまわり》の図版を見せ、見たことがあるか、作者は知っているか聞く。

step2

印象派のはじまり

- ・印象派という言葉は、もともと批評家が皮肉をこめてつけたもの。
- ・主な作家に、クロード・モネ、ピサロ、シスレー、ドガ、ルノワール、セザンヌなどが挙げられる。
- ・絵の具の跡を残さず、写実的に描くのが美しいとされていた時代に、荒い筆致や絵の具が盛り上がった作品を特徴とする。
- ・一瞬の光や風景特に戸外での制作をしたことなどが特徴にあげられる。

印象派のはじまり

モネ《印象・日の出》から「印象」という言葉を揶揄としてルイ・ルロワが呼んだこと、スーラ、シニャックなどの点描による作品は「新印象主義」、ゴーギャン、セザンヌ、ゴッホは「ポスト印象主義」とも呼ばれたことを説明する。

ファイルふせんでモネ《印象・日の出》（マルモッタン・モネ美術館）やルノワール、シスレー、シニャック、セザンヌの図版を共有する。

step3

19世紀後半のヨーロッパ
1789年のフランス革命以降、貴族文化にかわって市民文化が主流となった。
中国趣味（シノワズリ）は貴族文化からあったが、日本の開国によって浮世絵などが発見されていく。

ヨーロッパの人々の日本文化発見

今日の19世紀のヨーロッパと日本のそれぞれの時代背景を、簡単に確認する。

ファイルふせんを共有し、生徒は適宜メモを追記する。

step4

2つの作品を見比べよう。
全く違う技法で描かれたが、何か似ているところはあるかな？

浮世絵と印象派の比較

ファイルふせんで2作品を共有し、グループごとに共通点を話し合い、出てきた意見をまとめる。

授業支援機能を用いて個人作成のふせんをグループ内で送受信させる。その後、教員のデジタルノートに同時編集機能で参加させ、用意されたテキストふせん（テンプレート）に要約を書き込ませる。

step5

浮世絵の特徴
・手前に大きく物を配置する構図
・影がなく、夜の風景も明るく描く
・単一的な色の塗り方

→印象派の画家たちに驚きを与えた！
・大胆な構図の取り入れ
・印象派の作品の中には、日本の物を小道具に入れていることもある。

印象派の日本からの影響確認

参考図版
ゴッホ《タンギー爺さん》
モネ《ラ・ジャポネーズ》《睡蓮》

生徒から提出されたふせんを画面に表示して確認する。
その後、浮世絵が印象派にもたらした影響を、ファイルふせんで参考画像を示しながら共有する。

step6

次回までに印象派の作品から、風景画を1点調べて提出する。

まとめ・宿題

絵の具がチューブになり、気軽に持ち歩けるようになったことも印象派の動きとして重要であることから、外の風景を描いた作品を1点調べる。それにより、外の光（一瞬の光）を描こうとしたことなどに気づくことを目的とする。

宿題はファイルふせんに記載させ、授業前日までに教員に送信するように指示する。
提出されたファイルふせんは、次回授業の冒頭で紹介する。
（または、提出させた作品の中から1点選び、次回授業の冒頭で対話型鑑賞をするのも良い）

step7

参考
開催中の印象派に関する展覧会の紹介
・「モネ展」 ●●美術館

いつでも印象派の作品と出会える美術館
・国立西洋美術館
・アーティゾン美術館
・ポーラ美術館

参考・補足

関心のある生徒に向け、日本での印象派受容にも言及する。

ファイルふせんやリンクふせんで印象派をコレクションしている美術館などを紹介する。